

e-水プロジェクト2020 活動計画

事業名：湿地環境維持管理の継続でSDGsへの貢献

具体的な数値目標とロードマップによる現状と方向の把握

十勝川中流部市民協働会議
2020年4月

SDGsとは「持続可能でより良い世界を目指す国際目標」



当会(略称 十中協)は13・15・17について取り組む

当会としての
「SDGs」
に対する考え方

1. SDGsを『美しいスローガン』にするのではなく、
数値指標と具体的な行動の課題別目標に明確化する。
2. 進捗率と進むべきベクトルを定期的にチェックしながら行動する。

湿地環境の維持管理で該当するSDGs目標



13【気候変動に具体的な対策を】

行動→再樹林化を防止し、湿地、草原環境を維持することで、再繁茂するヤナギ林の伐採量を減らしその工事に伴う温室効果ガス(二酸化炭素量)を抑制する。

目標→2030年までに温室効果ガスを45%削減する。



15【陸の豊かさを守ろう】

行動→ヤナギ単層林から多様なハビタットへの変化で創出した、生物多様性を維持する。

目標→湿地環境の創出により49%増加した生物種数を2030年まで維持する。



17【パートナーシップで目標を達成しよう】

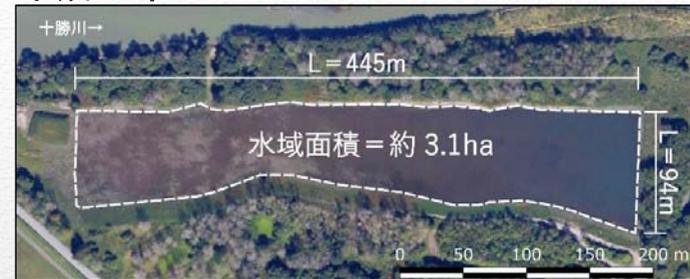
行動→川づくりにおけるアイヌ民族文化とのパートナーシップと民族文化伝承への協力する。

目標→32.4m²/年のゴザ(キナ・チタラペ)原材料のガマ(シキナ)を提供し続ける。

一連の取り組みを行う十勝川相生中島上流湿地とは



平成25年



平成28年(台風後)



令和元年



年度	改修工事 (国)	十中協による取り組み	
		魚類調査 (帯広農業高校と連携)	H28台風後の水域拡大
H24	再樹林化防止のため掘削 ↓ 湿地形成		
H25~H27		H26年秋期開始 ●	
H28	【災害】台風による土砂堆積のため水域が半減		
H29~R01			H29年開始 ●
R02		継続 ↓	継続 ↓

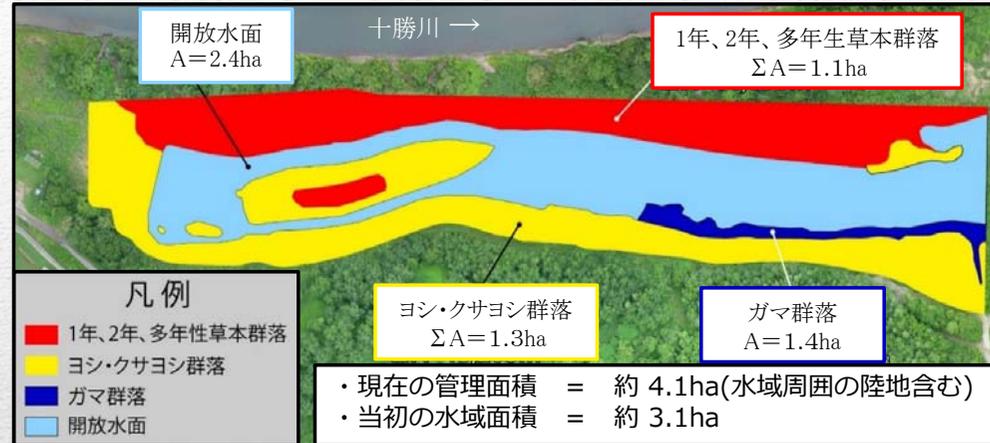
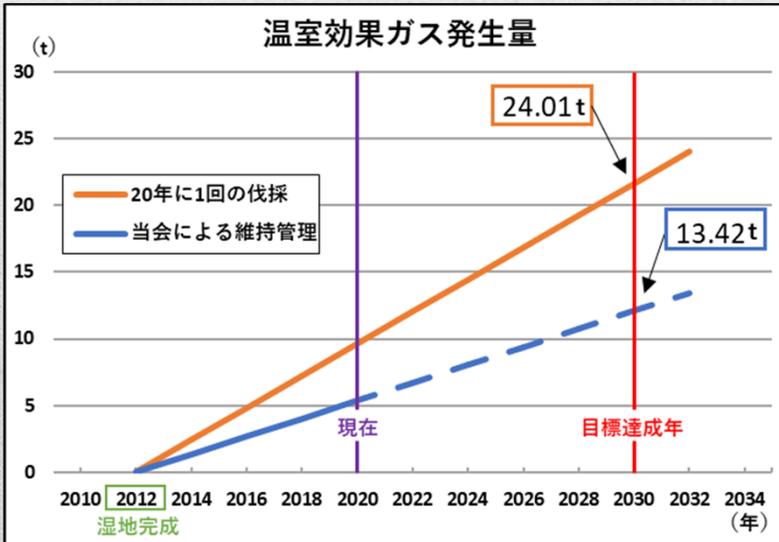


13【気候変動に具体的な対策を】

目標：2030年までに温室効果ガスを45%削減する。

【今後の活動】

ヤナギ伐採工事の際に排出される温室効果ガスの発生を抑制するために、ヤナギ幼木の処理と湿地環境維持のための掘削作業を継続して行う。



2020年5月植生区分図 (予想)

湿地完成から目標達成年(2030年)までの約20年間で排出される温室効果ガスを算出

- ◆ 放置した場合、20年後に管理面積全体がヤナギ林化したと想定
ヤナギ林伐採工事の際に排出される温室効果ガス・・・24.01 t (A)
- ◆ 目標とする環境(図)を維持する際に発生する温室効果ガス
バックホー0.7m³級で2日間作業した際の温室効果ガス・・・0.67 t/年
作業を20年間続けた際に排出する温室効果ガス・・・13.42 t (B)

➤ 約20年間で排出される温室効果ガスを比べると

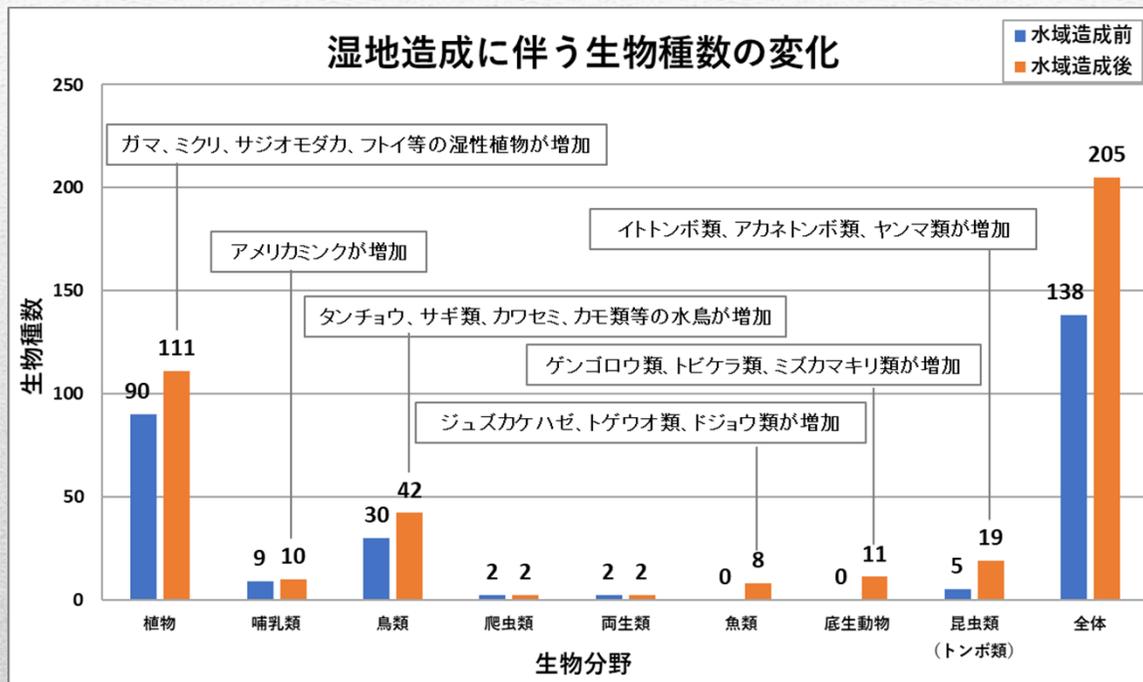
$$24.01 \text{ t (A)} > 13.42 \text{ t (B)} = \text{45\%の抑制!!}$$

15 陸の豊かさも
守ろう



15【陸の豊かさも守ろう】

**目標：湿地環境の創出により49%(138種→205種)増加した
生物種数を2030年まで維持する。**



【今後の活動】
 生物の多様性を維持するため、H28年の台風により半減した水域を、掘削による面積拡大や多様な水深の創出を行う。



湿地造成前138種 → 湿地造成後205種 49%の増加

15 陸の豊かさも
守ろう



15【陸の豊かさも守ろう】

**目標：湿地環境の創出により49%(138種→205種)増加した
生物種数を2030年まで維持する。**

実践教育フィールド提供 ～H26年より地元高校生との連携による継続的な魚類調査～

調査目的

- 水域の魚類がどれぐらいの「量」で存在するかの調査

調査方法

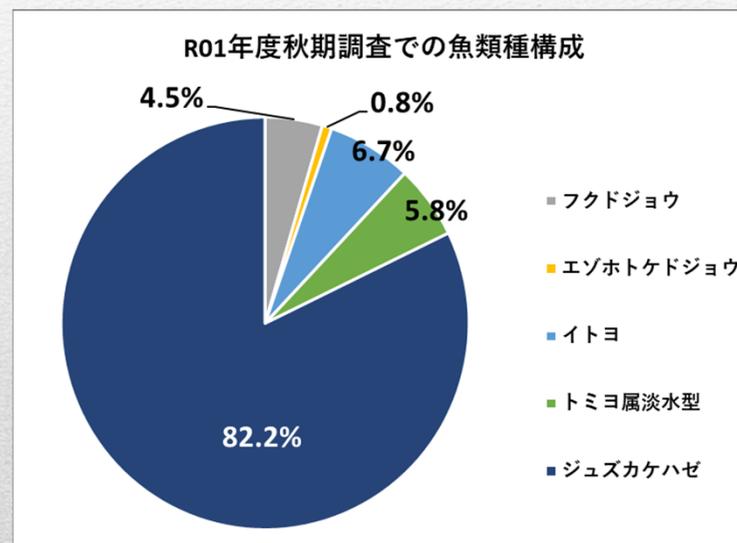
- 水域内に調査区を設置しタモ網による採捕
- 種類の同定（個体数・体長・重量の計測）



採捕状況の様子



種類の同定の様子



**湿地環境の維持管理をしていくこと
で継続的な活動が可能になっている。**



17【パートナーシップで目標を達成しよう】

目標：32.4㎡/年※のゴザの原材料のガマを提供し続ける。

(アイヌ語でゴザを「キナ」、「チタラペ」、ガマを「シキナ」という)

アイヌ民族の伝統儀礼に使用するゴザの原料であるガマの提供

- ガマの生育地が減少し原料確保が困難
→ 相生中島上流湿地でのガマ生育面積を拡大
- 十勝管内のアイヌ民族の団体が希望するガマの数量を提供
→ 年間32.4㎡程度のゴザを制作できる分
- 継続して提供できるよう生育面積を協働で維持する

アイヌ民族の団体と帯広農業高校の連携によりアイヌ文化の伝承に協力

- ガマ採取・ゴザ編み等を高校生と連携して行うことで
→ 民族文化の伝承に寄与するとともに、高校生のアイヌ文化への理解を深める



現況のガマ生育箇所



ガマ採取の様子

※ 伝統儀礼の際に20畳程度が必要となる。



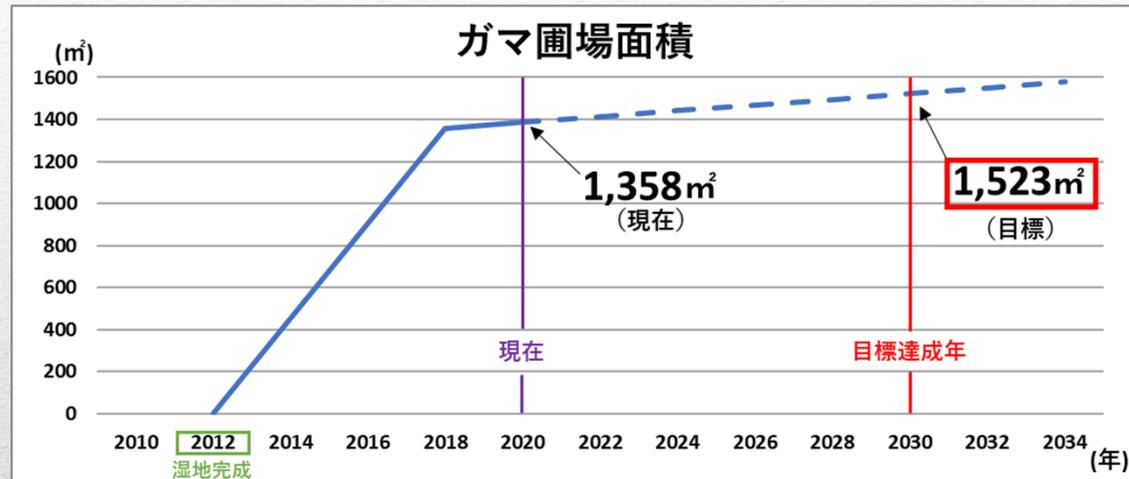
17【パートナーシップで目標を達成しよう】

目標：32.4㎡/年のゴザ(キナ・チタラペ)の原材料のガマ(シキナ)を提供し続ける。

【今後の活動】

- ・川づくりにおけるアイヌ民族文化とのパートナーシップと民族文化伝承への協力をする。
- ・必要なガマ生育面積確保のため掘削作業を行う

目標とするガマ生育面積



【継続的な提供を行うためアイヌ民族の知恵※1に習いガマの葉の採取量は全体の10%とする】

- ◆ 現地でのガマ生育状況から採取できる葉の数 ……………平均100枚/㎡→10枚採取(10%)
- ◆ ゴザ1㎡当りの制作に必要なガマの葉の数……………470枚※2 →必要面積 47㎡
- ゴザの面積32.4㎡/年(20畳分)分のガマを提供するために…47㎡×32.4㎡≒ **1,523㎡**

※1 アイヌ民族の知恵(ユーカラの伝承)：必要な量を獲るのではなく復元可能な量しか獲らない

※2 ゴザを作るために必要なガマの葉の数については、アイヌ民族の団体からの聞き取りによる

十勝川相生中島地区 2020年度活動計画

時期	活動内容	備考
4月20日～30日	重機による掘削	再樹林化防止、ヤナギ覆土・踏圧、 ガマ生育面積拡大
5月～10月	環境調査(生物モニタリング)	生息種確認(鳥類、トンボ類)
5月～11月	周辺環境維持・管理	除草・ゴミ拾い
7月	魚類調査・底生動物調査	帯広農業高校生と協働
9月～10月	ガマ(シキナ)採取	アイヌ民族の団体と協働
10月	魚類調査・底生動物調査 ゴザ(キナ・チタラペ)編み講習会	帯広農業高校生と協働